



収集した郵便検閲の資料を探る山本武利・一橋大名誉教授—東京都日野市で5日

## 占領下、同胞の手紙検閲に2万人従事 山本武利・一橋大名誉教授が解明

終戦の1945年から4年間、ひそかに占領軍に雇われた日本人が同胞の手紙を盗み見し、検閲していた。従事したのは英語に堪能な約2万人とされる。その全容を歴史学者の山本武利・一橋大名誉教授(80)が解明した。連合国軍総司令部(GHQ)の資料から名簿を発見し、詳細な分析を重ねたものだ。

山本氏によると、郵便検閲は戦犯や共産党関係者を要注意人物として把握するのが目的だったが、検閲作業を通じて何が問題となるのかを日本のエリート層に教えることで、米

国政府の考え方を日本人に浸透させる役割も担ったとみている。

通信の秘密を侵す検閲が、同時期に制定された日本国憲法に抵触するのは当然だ。その中で日本人たちはどのような心境で携わり、その後どう総括したのか。山本氏は名簿にあった人たちに面会し、著作や手記を大量に収集して調べた。

この体験に苦しむ人、割り切る人、肯定的に捉える人と対応はさまざまで、山本氏は「極めて多種多様だった」と話す。ほかに沈黙を貫いた多数の人がいたはずで、体験は日本人

に大きな影響を及ぼしたとみられる。

山本氏は「日本人の思想を制御し、考え方を変えていく役割を果たしたのではないかと分析する。研究成果を「検閲官——発見されたGHQ名簿」(新潮新書)に著した。

◇

郵便検閲の従事者には、のちに閣僚や衆院議員、言語学者になった著名人も含まれていた。

山本氏は、著名な劇作家とローマ字表記で同姓同名の人物を名簿に発見。本人なのかを調査した。

山本氏によると、名簿の人物は検閲官を対象にした英語の試験で高得点を挙げ、検閲官の監督役を務めていた。劇作家は英語に堪能であることで知られる。「進歩的文化人」として活動したが著作などで直接の米国批判をしておらず、占領期の個人的体験を残していないという。さらに劇作家をよく知る複数の人物への取材で、同一人物とみて矛盾しないとする証言も得たとしている。山本氏は「本人だとみるのが自然だと考えているが、100%の確証は得られていない」と話す。【青島顕、写真も】